

自分に強くなれ

岡山県

昇龍館一福道場

小学6年 岡 大 聖

「何で人が嫌がることばかりするの。」

幼稚園の頃、暴れん坊だった僕は、外で遊んで帰っては、両親に叱られていた。物をこわしたり、人の嫌がることをしたりして、叱られても、その時は、悪いことをしたなと思うが、そのうち忘れて同じことを繰り返した。自分が楽しければいいやという気持ちだったのだと思う。

僕には、大好きな曾おじいちゃんがいた。曾おじいちゃんが僕によく言っていた言葉があるそう。だ。「ウソをつかない。弱い者をいじめるな。自分に強くなれ。」でも僕はまだ小さかったからあまり覚えていない。曾おじいちゃんが亡くなって、代わりにお母さんが、「曾おじいちゃんはずいつもそう言っていたよ。」と、教えてくれた。でも、僕にはピンとこず、悪いことをしても、「やってないよ。」とウソをついたし、僕より弱い子に手を出したりしていた。何より、「自分に強くなれ」なんて意味が分からなかった。

一年生になる少し前、僕は絶対にしてはいけないことをした。友達と遊び半分でやった。そして、やったのに、やってないとウソを言い、もうしないと言いながら、また同じ事をした。お父さんにばれて、今までにないくらい叱られた。そして、お父さんとお母さんは、僕を叱りながら泣いた。僕は、お父さんが泣くのを初めて見た。とても心が痛かった。

それから何日か経って、お父さんに、「剣道をして見ないか？」と、言われた。なぜ剣道だったのかというと、この有り余った体力を何か他のことに活かせないかということ、武道で心をきたえることができたなら、という思いがあったようだ。最初、お母さんに連れられて、今所属している昇龍館一福道場へ見学に行った。「ものすごい迫力。そして、カッコいい、やってみたい。」と、というのが第一印象だった。

剣道を始めて、一年が経った頃、疲れるし、遊ぶ時間もないし、試合では勝てないし、行くのが嫌になった時期があった。そんな時、お母さんに、曾おじいちゃんのお言葉の「自分に強くなれ」を言われた。「行きたくない自分、楽をしたいという自分に勝てないと、剣道でも勝てないよ。」と、言われた。分かったような、分からないような。でも、負けず嫌いの僕は、剣道で勝ちたかったから、毎日、けい古に行った。

小学校では、入学してしばらくは、自分が嫌なことがあったら、すぐにカッとなったり、物をこわしたり、友達とけんかをしたりしていた。その度に、お母さんは、曾おじいちゃんのお言葉の「ウソをつかない。弱い者をいじめるな。自分に強くなれ。」という言葉をかけてくれた。僕は、自分に強くなるために、変わろうと努力した。学校でイライラした時は、グッと我慢して曾おじいちゃんのお言葉を思い出した。剣道に行きたくないと思った時、曾おじいちゃんに背中を押してもらおう気持ちで剣道に行った。

それからしばらくして、お母さんが言うには、学校や近所から苦情の電話がかかってくる回数

が減ったそうだ。剣道では、団体が優勝できるようになり、個人でも上位に上がれるようになった。そして、3年生の個人こん談で初めて、「先生にたくさんほめられたよ。」と、お母さんが笑顔で帰ってきた。その頃、剣道でも、初めて個人戦で優勝した。とてもうれしかった。頑張ってきてよかったと思った。何より家族が喜び、笑顔になってくれた。家族が、悲しんで泣く姿はもう見たくないが、笑顔で泣く姿をもっともっと見たいと思った。もし曾おじいちゃんがいたら、どんな顔をしてくれたらだろうか。

これからも、剣道でも日常生活でも、辛いこと、苦しいこと、そして、「ここで自分に勝たなければ」という場面がたくさんあると思う。そんな時、「自分に強くなれ」を思い出し、剣道を通じ自分を成長させていきたい。